

森林吸収源インベントリ情報整備事業地域講習会・九州ブロック

開催日：2015 年 7 月 16 日（木）

場 所：鹿児島県始良郡湧水町（調査地点コード 460380）

講 師：酒井（佳）・稲垣（昌）（森林総研九州支所）、池田・大曾根（森林総研本所）

○概要

九州及び中国・四国ブロックの現地調査を担当する熊本県森林組合連合会（以下熊本県森連）の担当者 5 名を対象に地域講習会を実施した。台風 11 号が近づいており、直前まで天気が心配されたが、当日は時折小雨が降る曇天で気温は約 30℃、林内は涼しく、快適な条件の下で講習会が行われた。

担当者と講師が前泊した宿泊施設がたまたま同じだったため、朝 8 時に一緒に宿泊施設を出発し、車で 30 分程度の場所にある調査地点に向かった。調査地は、集落の近くの里山内の南北に伸びた尾根部分にあった。尾根の東西は傾斜が 20-40 度の斜面になっており、中心杭と南北の杭は尾根上、東西の杭は斜面下部に位置していた。尾根の西側はヒノキ人工林、東側はコナラやヤマザクラなどの落葉広葉樹に常緑広葉樹が混じる二次林となっていた。

8 時 45 分、調査を開始した。熊本県森連は過去 3 年この事業を担当しており、講習会参加者 5 名のうち 4 名は調査経験者であった。このため、講習は、担当者に通常どおりの調査を行ってもらい、その中で講師が気づいた点を指摘するという形で行った。まずは全員で中心杭と 4 方向の杭の確認を行い、その後、3 名の担当者が同時に E（東）、W（西）、S（南）地点の土壌断面調査を開始した。残りの 2 名はこの間、概況調査とライン長測定を行い、断面整形が終わった地点から断面の撮影を行っていった。

断面調査の担当者はいずれも経験者で作業はおおむね手順通りに滞りなく進められていたため、講師からはおもに調査精度を向上させるための助言がなされた。鮮明な断面写真を得るために土壌が明るい色の場合は根を剪定鋏で短く切断すること、A0 層と土壌の境界を判断するには荒堀をした側面の部分の堆積有機物の厚さを実際に手に取って確認すると良いことなどが教示された。また、担当者らはスクレイパーのようなもので断面の整形をしていたが、講師の土壌断面整形用のコテを貸与し、専用の道具を使うと作業効率が上がることを体感してもらった。広葉樹の根が繁茂した E 地点以外の 2 地点は、試料が採取しやすく午前中のうちに試料採取まで終了し、手の空いた者から、N 地点の荒堀を開始した。

午後は、残りの断面調査と枯死木調査が行われた。枯死木調査を担当した 2 名のうち 1

名は未経験者であったため、高さ 1.5m以下のものは「立枯れ木」ではなく「根株」とすること、根株の写真はフレーム一杯に撮影するのではなく、フレーム周辺部に空間を残して根株が中央部分に位置するように撮影すること、など基本的な事柄を確認しつつ調査を行った。14時半頃、すべての調査が終了した。

全般を通して、調査経験者の多い熊本県森連では、役割分担が明確に決まり、円滑に作業が行われていた。今回は同時に3地点で整形を始めたものの、根の多いコナラ林分で断面整形に手間取り、調査の進行にばらつきがあったが、手が空いた者が遅れている地点のサポートに入るなどして、状況に応じて臨機応変に対処する体制もできていた。



写真1. 調査地に向かう。調査地は集落近くの里山林。近くには田んぼがあった。



写真2. 断面整形中。コナラの二次林は根が多かった。



写真3. 根株の撮影。根株の真上から写真を撮影する。



写真4. 堆積有機物の採取。礫や土が混入しないよう、堆積有機物だけつまみ上げる。